

子ども・若者オンラインワークショップ結果

概要

(仮称) 子ども・若者総合支援条例の検討にあたり、子ども・若者世代の意見を収集するため、年齢に応じて以下の2部に分け、それぞれオンラインワークショップを実施した。

- 【実施日時】** 令和3年8月9日(月・祝)
- ①子どもの部：午後1時～3時
 - ②若者の部：午後4時～6時

- 【対象】**
- ①子どもの部：小学生5年生～中学3年生の方
当日参加者 12人 (申込者13人)

(・11～12歳	：1人
	・13～15歳	：11人

 - ②若者の部：令和3年度中に16～39歳になる方
当日参加者 11人 (申込者27人)

(・10代	：5人
	・20代	：4人
	・30代	：2人

意見の活用方法

子ども・若者への「支援」と「参画・活躍」を推進する条例の制定に向けて、子ども・若者から意見をもらい、条例要素に関連する意見及び条例制定後の取組のヒントを得る。

■子どもオンラインワークショップでの主な意見

【テーマ】※下記テーマをベースに、幅広く意見を聴取

1 あなたの体験や意見を教えて！

- ①条例は多摩市のルール、あなたのおうちのルールはなに？
- ②困ったとき・悩んだときに…
 - ★してもらってよかったこと・してほしいことは？
 - ★友達が困っていたり悩んでいたら、どんなことをしてあげる？
- ③最近チャレンジしたこと、そのきっかけを教えて！

2 あなたの力をまちづくりに活かそう！

- ①暮らしやすいまちづくりのためにあなたの意見を伝えるならどんなものに参加したい？
- ②この条例をみんなに知ってもらおう！あなたなら何に参加する？

○おうちのルールについて

- ・ ゲームやスマホの使用時間の設定（ゲームは8時半まで、スマホは10時までなど）
- ・ 門限がある
- ・ 子どもしか家に居ない場合、インターフォンが鳴っても出ない
- ・ みんなが使用する場所を清潔に保つ
- ・ 食べ物に自分の名前を記入する

○困ったとき・悩んだとき

- ・ 悩んでいる時に傍にいて、相談を聞き、一緒に行動してくれると嬉しい
- ・ 悩んだ時は、学校の友達にLINEで相談もしくはインターネットで知り合った人へ相談する

○最近チャレンジしたこと

- ・ 料理（本を買って、好きな料理を作ることに挑戦）
- ・ 学校の定期テストと部活の両立
- ・ 部活で新技に挑戦
- ・ 早い時間に学校へ登校
- ・ 教室内の清掃を自ら進んで行う
- ・ 資格取得

○どのようなイベントに参加したいか・どのようなイベントなら参加してもらえるか

- ・ 定期的（月毎など）に気軽に参加できる小規模なイベント、身近に感じるイベント
- ・ 年齢が近い人、知っている人が集まるイベントだと話しやすい
- ・ 幅広い世代や立場（友人や学校の先生など）の人、初めて会う人と交流できるイベントがあると新しい発見がある
- ・ カジュアルな雰囲気（大人の服装はスーツではなく、ラフな格好で参加）
- ・ インターネットでのアンケート（市公式YouTubeのコミュニティでアンケートを実施）
- ・ Zoomなどのオンラインイベント（人見知りの方はメールでのやりとりでも可とする）
- ・ 顔を合わせて話せるイベント（Zoomや近くの会場）

○条例を知ってもらうための方法

- ・ SNSによる周知
- ・ 宝探し、縁日、スタンプラリーなどを実施し、市について知ってもらう（条例を自分事として意識してもらうために楽しく知ってもらう取組）
- ・ 身近な人からの情報提供
- ・ イベント参加者にA4のチラシを4つ折りしたものを配布
- ・ 買い物した際に受け取るレシートにイベント告知
- ・ 商店街などにチラシをポスティング
- ・ 魅力的なキャッチコピー
- ・ イメージしやすい内容にまとめる
- ・ 条例について動画配信（3分程度）による周知（YouTube、テレビコマーシャルなど）
- ・ 条例について漫画や小説形式での周知

○その他

- ・ （路上飲みが増えているので）市をより綺麗にするため、市内にゴミ箱を設置

■若者オンラインワークショップでの主な意見

【テーマ】※下記テーマをベースに、幅広く意見を聴取

1 あなたの体験や意見を教えて！

- ①（子どものとき～最近）困ったとき・悩んだときに、してもらってよかったこと・してほしいこと・してあげたこと
- ②チャレンジ・活躍
 - ★失敗してしまったときにどのように乗り越えたか、こうすればよかったと思うこと
 - ★子ども・若者のチャレンジを促すために何が必要か

2 あなたの力をまちづくりに活かそう！

子ども・若者が暮らしやすいまちづくりに向けて参加するなら？何に参加する？

○困ったとき・悩んだときに、してもらってよかったこと・してほしいこと・してあげたこと・どのように解決したか

- ・ 誰かに相談できる・理解してもらえる環境やコミュニティ
- ・ 先輩・後輩が悩みを聞いてくれたことが嬉しかった
- ・ 相談した時に、単に答えを返すのではなく自分自身で考えさせてくれた
- ・ 引っ越しを機に知り合いがいなくなってしまう寂しかったが、地域のワークショップやイベントに参加することで知り合いを増やすことができた
- ・ 小・中学生の頃、将来やりたいことが見つからず悩んでいたため、進路を考えられるように職業体験プログラムがあるとよい

○失敗してしまったときにどのように乗り越えたか、こうすればよかったと思うこと

- ・ 次に失敗しないよう自己分析する
- ・ 行動にうつしてみると意外に成功する
- ・ 何か一点に特化して取り組むと成功した
- ・ 失敗したと感じた時点で修正すれば良い

○子ども・若者のチャレンジに必要なこと

- ・ 勢いに任せて行動してみる／行動にうつす積極性（ボランティア活動など）
- ・ 成功体験の積み重ね
- ・ チャレンジする機会を設けたり、チャレンジする方法や選択肢を提示したりするとチャレンジしやすい

○どのようなイベントに参加したいか・どのようなイベントなら参加してもらえるか

- ・ オンラインイベント
- ・ 内容が明確で、気軽に参加できそうなイベント
 - ◇ 音楽フェス
 - ◇ 自然にふれあうレクリエーション
 - ◇ フリーマーケット
 - ◇ 20～30代の婚活イベント
 - ◇ 日本酒を飲む会
 - ◇ マラソン大会
 - ◇ スポーツ大会
- ・ 職業体験ができるイベント（市内の大企業と連携した体験プログラムがあると、多摩市に住んでいることのメリットを感じられる）
- ・ イベントに著名人を呼ぶ
- ・ 多世代が交流できるイベント
- ・ 参加するメリットを感じられるイベント
- ・ 参加者全員で何か一つのものを作り上げるイベント（若者のコミュニティ形成につながる）

○どのようなイベントは参加しづらいか

- ・ ボランティア活動は一人だと参加しづらい
- ・ 高齢者が多いイベント

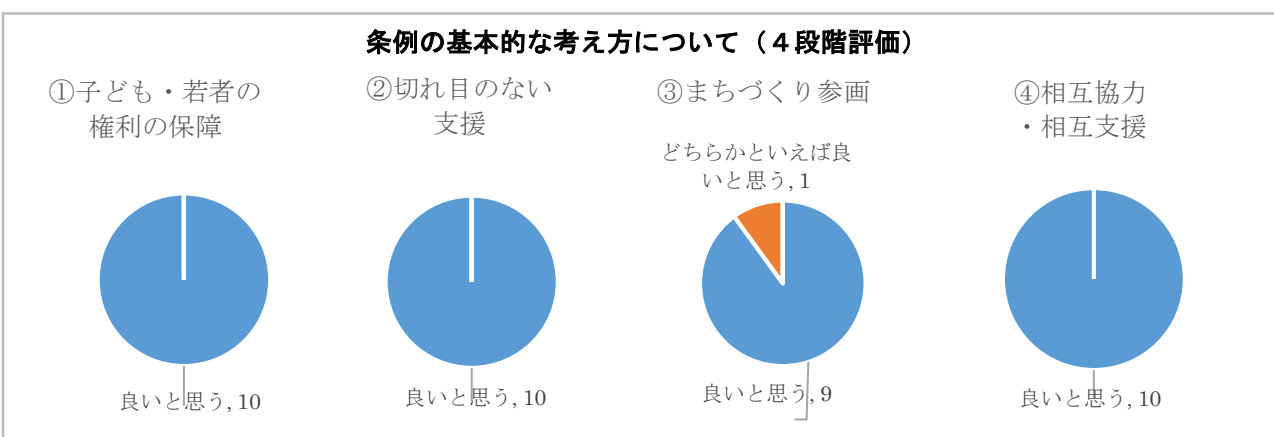
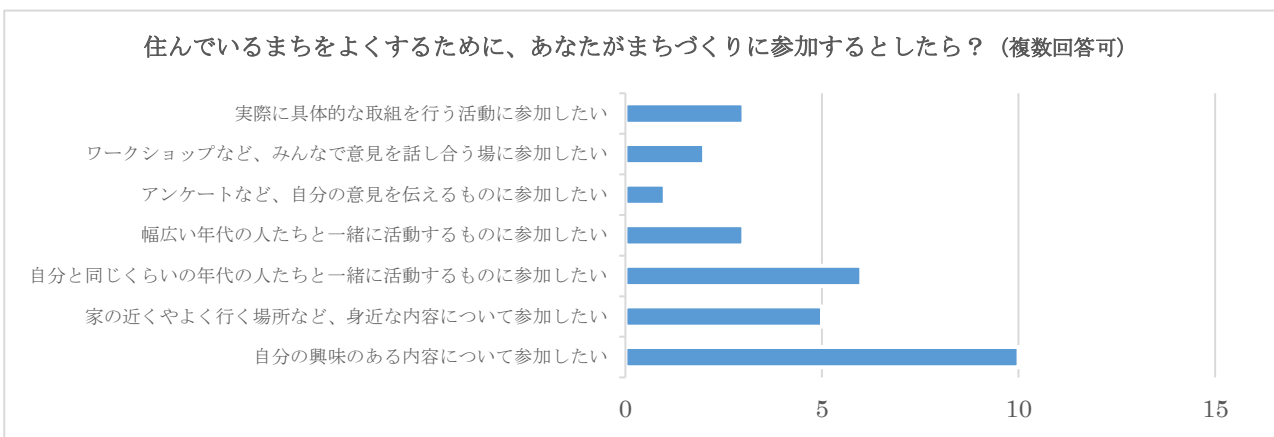
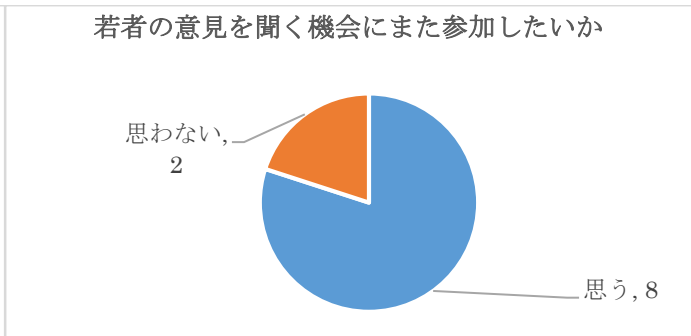
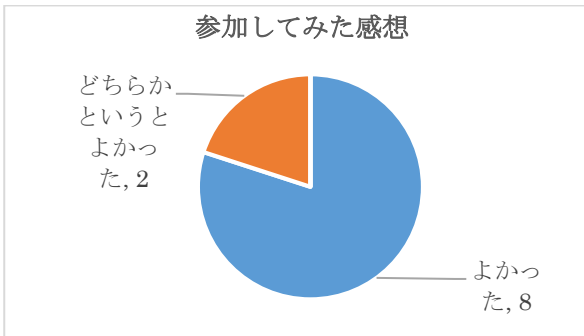
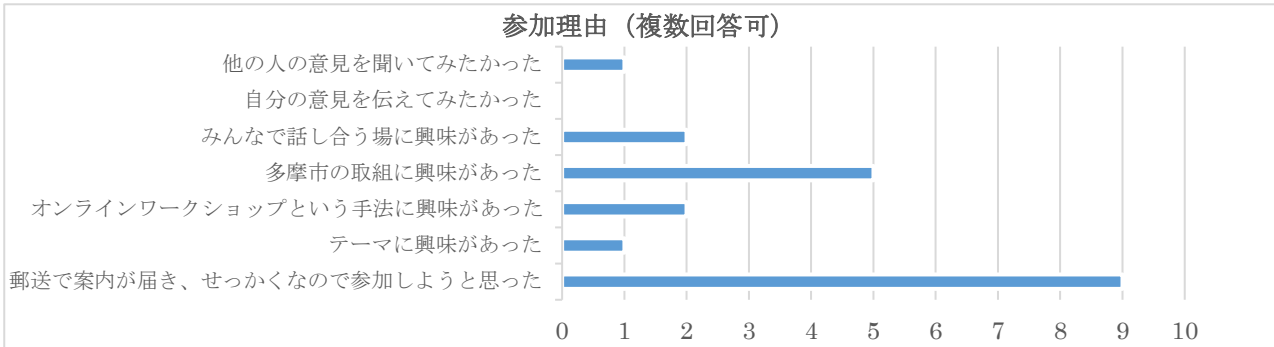
○条例や多摩市を知ってもらうための方法

- ・ SNSでの情報発信（コメントができるようにする／多摩市の景色や多摩市の食材を使用したレシピの公開）
- ・ たま広報
- ・ 駅のホームなど目につく場所でのポスター掲示、駅前でのチラシの配布
- ・ インパクトのある条例内容（ゲーム規制条例など）
- ・ 多摩市や市内で行われる全てのイベントを知ることができる場所の設置
（目的を達成した後も長居したいと思えるような憩いの場をつくり、そこで多摩市の情報が得られるようにすることで、市民の情報の感度を上げる）

○その他

- ・ 図書館に社会人席が設置されているが、いつも空席状態。社会人は一般席を利用するため、学生が利用できる席数が減ってしまっているの見直すべき
- ・ オンラインワークショップの画面に顔と名前を表示させることに抵抗感がある。広報利用における個人情報公開の範囲をあらかじめ明確に参加者に説明すべき

■ 若者オンラインワークショップ参加者アンケート結果概要（回答者数10人）



<自由意見（一部抜粋）>

- ・自分の考えを発信できる良い機会だった。アイデア出しで終わるのではなく、具体的なアクションにつなげていくことが大切。
- ・みんなで話せてとても楽しかった
- ・多摩市が、若者が溢れる活気ある街になれば嬉しい